

***昭和7年の井上四郎氏退職への餞別奉加帳を収蔵**

アーカイブ室新聞第18号(2008年6月9日)に「井上四郎資料1(初代東京天文台長寺尾寿の記念行事の集合写真)」、アーカイブ室新聞第19号(2008年6月11日)「井上四郎資料2(第1回文化勲章受賞 木村栄の正装写真発見)」、アーカイブ室新聞第20号(2008年6月11日)、「井上四郎資料3(三鷹村大沢 天文台南の水田の写真発見)」、アーカイブ室新聞第24号(2008年6月17日)「井上四郎資料4(麻布時代のドームと井上四郎氏)」、アーカイブ室新聞第25号(2008年6月18日)「井上四郎資料5(井上四郎氏著書:天文小話)」、アーカイブ室新聞第38号(2008年7月3日)「井上四郎氏の情報の追加(新星発見、内村鑑三との関係)」と大正から昭和初期にかけて東京天文台で主に太陽観測に従事した井上四郎関係の資料収蔵についての記事を書いてきた。

今回はこれらの記事の続編であり、井上四郎のお孫さんにあたる方から譲渡いただいた資料の中にあつたもので、昭和7年の退職の際の餞別の奉加帳(写真1、2)である。この餞別の奉加帳で当時の職員、どんなものが贈られたかで当時の事情を垣間見ることが出来る。目録には金側腕時計、ラヂオ受信機とある。奉加帳の筆頭者は当時の台長であつた早乙女清房であり、2人目に名を連ねているのは65cm望遠鏡建設を指揮した橋元昌矣である。

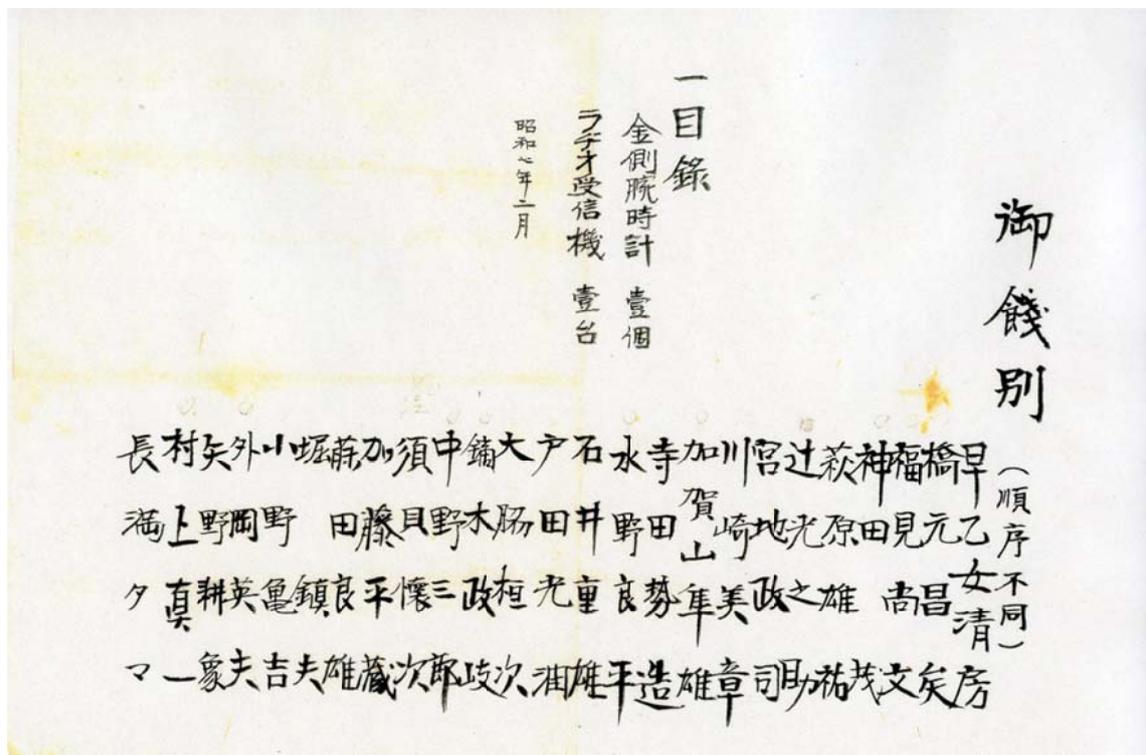


写真1 奉加帳1枚目

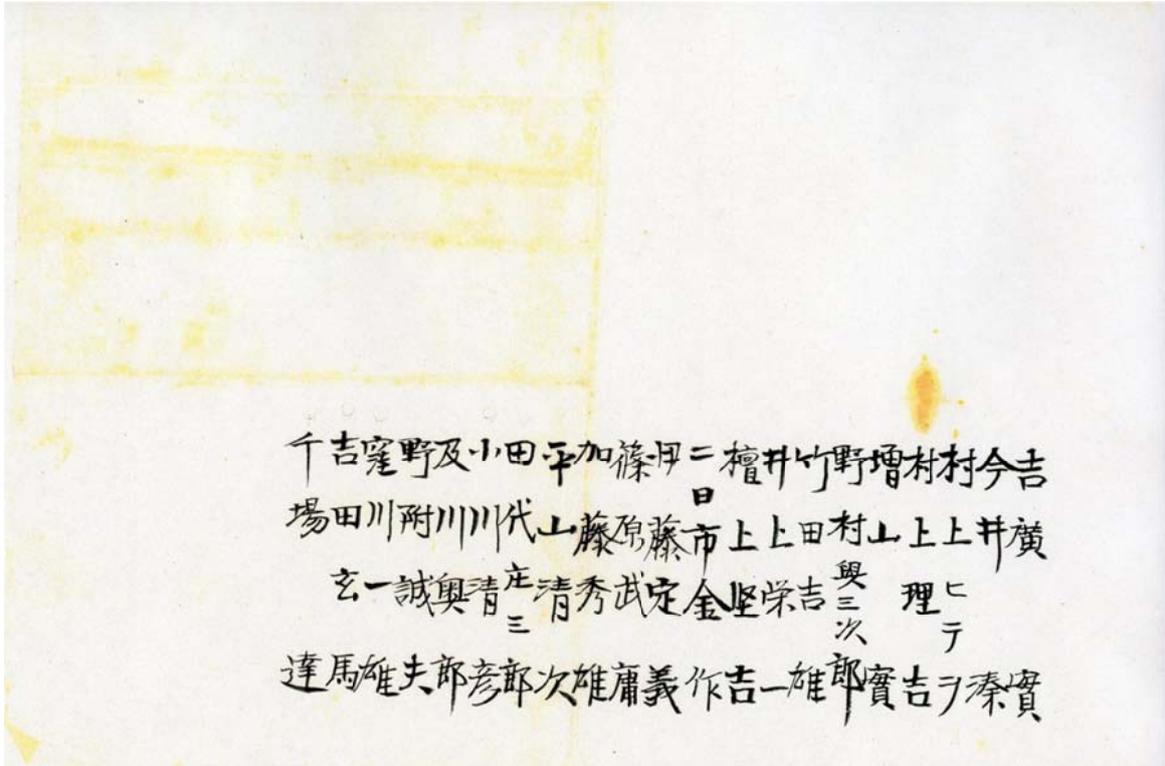


写真 2 奉加帳 2 枚目

この奉加帳に名前を連ねたのは 46 名である。この中には筆者が昭和 36 年に東京天文台に入った時に在職されていた方々もおられる。しかし、今年(昭和 90 年)にあたり、この奉加帳から 83 年を経ているのでご存命の方はいないと思われる。筆者は東京天文台岡山天体物理観測所に入ったので、その時点で三鷹にいた人すべてを知っているわけではないが、筆者が存じ上げている当時の現役は、台長であった宮地政司、子午線部部长であった中野三郎、天文計算室におられた千場 達、工作係長であった竹田吉雄、また、昭和 41 年に三鷹に移った当時よく存じ上げ、お会いした方々には、辻光之助、加藤平蔵氏などがおられる。そして東大天文学教室の教授に移られていた鏑木政岐、藤田良雄の方々がいる。

このように退職者に餞別を送る習慣は長い慣行になっていたが、一度に辞める定年退職者がどんどん増えて、その人数が 10 人ほどに増えた時だったか、もう餞別、記念品を贈る習慣は止めにしようとなくなって久しい。

グラウンドの南東に大きなヒマラヤスギが 3 本立っているが、これがこの習慣を象徴するような存在である。昭和 45 年(1970 年)3 月に定年退職された広瀬秀雄、虎雄正久、長沢進午の 3 教授が定年退官されたときの記念植樹で植えられたものである。この時、餞別で集められたお金でそれぞれに真鍮製の 36 インチ天体写真儀(堂平の 91 cm 望遠鏡)、写真天頂筒(PZT)、25 cm コロナグラフ(乗鞍コロナ観測所)の模型が贈られた。

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp